公益社団法人日本動物学会　2025 年度第 4 回理事会　議事録案

1. 開催された日時：2026 年 6 月 12 日（金）13:00～16:30
2. 開催された場所：
https://us05web.zoom.us/j/89183618011?pwd=hZkIQncVB2E7aXoHXOSbGjckpBfMGj.1
（Zoom によるオンラインミーティング）
ミーティング ID: 891 8361 8011
パスコード: 061630
3. 理事総数及び定足数
総数 21 名　定足数 11 名
4. 出席役員
（理事出席）勝　義直、小川宏人、熊野　岳、深津武馬、田中幹子、三浦　徹、吉田　学、阿部秀樹、東城幸治、小柳光正、志賀向子、植木龍也、浮穴和義、山脇兆史、小柴和子、吉田　薫、佐倉　緑
（理事欠席）　渡邉明彦、伊藤悦朗、和田　洋、岡田二郎
（監事出席）大島範子、田島節子
理事出席者17名、監事2名の出席を得て、理事会は成立となった。議長は、志賀向子理事。
議事録署名人は、定款35条2項により、会長、大島範子監事、田島節子監事。

5. 報告事項
① Zoological Science 編集主幹報告（兵藤 ZS 主幹）
- 資料4のとおり、2025年度42巻は第 1～6号、2026年度43巻は第3号までが出版され、掲載論文数は昨年と同様の数で推移している。ここ数年、第1号は特集号を組んでおり、2025年は生理学、2026年はEvo-Devoであった。2027年はシーラカンスの特集号を予定している。
- 分野別内訳については、これまでと同様、現代動物学の主要な分野であるDiversity and evolutionやTaxonomyの論文が多い。
- 国別受理数はほとんどが日本国で、海外からの投稿は減少している。この理由は、これまで海外（特に途上国）からの質が高くない論文は、編集主幹の判断でリジェクトしてきた経緯があるため、論文投稿そのものが減ってきているためと思われる。
- 投稿論文の採否決定までの日数は、査読者の決定に時間がかかっているため、少しずつ伸びてきている。
- 今年は、subscribe to openとして受理されると即時Open accessであるが、来年度以降も継続されるかは不確かなところがある。ただ、Zoological Scienceのホームページ上に現時点で「subscribe to open」となっているアナウンスはすべきとの意見があった。

② 議事録の回覧
2025年度第3回理事会の議事録（資料1-1）および通信理事会の議事録（資料1-2～1-6）が回覧された。

③　会長報告（志賀会長）

代議員制の導入について執行部で議論を進めてきたので、本日の審議事項で議論いただきたい。新体制2年目であるため、引き続き気を引き締めてやっていきたい。

④　会計報告（佐倉会計）

- 2026年度支部活動費について、15 万円を下回る支部については本部からの補助を加えて 15 万円として、資料2のとおり決定したことが報告された。支部活動費は 7 月に各支部の口座に送金予定である。
- Zoological Science発行後2年経過した未収金は放棄することになっているが、今年度は該当する未収金はなかった。

⑤　庶務報告（吉田庶務）

- 資料 3 のとおり、ScholAgora からの UniBio Press 購読料返還について、動物学会（Zoological Science）分は 7 月に 11,874,857 円の購読料が振り込まれる予定である。なお、BioOne は、今年 John Hopkins University Press の傘下にはいったが、2029 年度までは、契約も含め今までどおり。ただし、2028 年夏ごろには、次のプランが提示される予定であり、ScholAgora を通じて、契約の内容などが示されるとのこと。
- 5 月末時点の会員数は新規会員数 279 名、総会員数 2108 名であった。昨年同時期では新規会員数 288 名、総会員数 2118 名であり、同程度の数字である。

⑥　Zoological Letters 編集長報告（倉谷 ZL 編集長（代読：吉田庶務））

- 出版状況として、現在の IF（2024 年）は 2.1 である。2026 年度の投稿論文数は 5 月 25 日現在で 21 報、昨年度同時期の投稿数 12 報を大きく上回っている。リジェクト率はここ数年変わらず、総投稿数の 7 割ほどである。投稿からアクセプトの日数もここ数年で最短となっている。海外からの投稿は持続しているが、APC 免除国のエジプトからの投稿は減少傾向である。
- APC 支援制度として、Zoological Letters への投稿促進と学会員による質の高い論文発信を支援することを目的として、2026 年度より 3 年間の試験運用として実施されている。年間、「APC 7 本分相当額」とし、学会会計年度（7 月 1 日～翌年 6 月 30 日）に基づいて運用される。先着順で、学会会計年度内に会計処理が完了可能なものに限る。APC は会員本人が立替払いをしたものに対して、会員個人口座へ入金し、研究費経由の立替・支払いは行わない。
- 新規編集体制として、ZL 編集体制の強化を目的として、Co-EIC 制度を導入し、深津武馬会員と平沢達矢会員が Co-EIC に就任した。また、新たに田中幹子会員が Associate Editor に加わった。
- 投稿に関する問い合わせ対応のため、専用窓口（ZL_inquiry@zoology.or.jp）を設置した。

⑦　第 97 回大会（2026 年）札幌大会準備状況報告（勝理事）

- 資料 5 のとおり、日程は 2026 年 9 月 3 日（木）～5 日（土）で開催。場所は本大会を北海道大学高等教育推進機構、懇親会を北部食堂、3 日目の一般公開イベントを北海道大学学術交流会館、大会前日の委員会・理事会は理学部棟で行う。

- 5 月 29 日に演題登録を締め切り、6 月 10 日の集計では 779 名、内学生 318 名、懇親会申込 452 名である。一般発表演題数は 504 演題であり、シンポジウム 18、関連集会 4 、本部企画シンポジウム、男女共同参画懇談会など 146 演題を予定。
- 6 月 19 日にプログラム集及び要旨データ入稿の締め切りとして、現在プログラムを組んでいる。動物学ひろばは、6 月 8 日に申し込みを締め切っている。託児所は、第一回案内を 7 月送信予定でいる。一般公開イベント（公開シンポ・動物学ひろば・高校生ポスター発表）に札幌市と札幌市教育委員会の後援を得る予定。大会には北海道大学大学院理学研究院の後援を得る予定。
- エクスカーションとして、9 月 3 日（木）に札幌円山動物園のナイトツアーを計画しており、6 月中に案内を出すが、動物への配慮から人数を限って募集を行う。

⑧　第 98 回大会（2027 年）関東大会準備状況報告（田中理事）

2027 年 9 月 2〜4 日（9 月 1 日に各種委員会・理事会を開催）に田中会員を大会長として、明治大学駿河台キャンパスで開催するよう準備を進めている。懇親会会場は仮予約中。

⑨　第 99 回大会（2028 年）近畿大会準備状況報告（小柳理事）

2028 年 9 月 14〜16 日（9 月 13 日に各種委員会・理事会を開催）に日下部会員を大会長として、甲南大学岡本キャンパスで開催するよう準備を進めている。

⑩　各委員会報告

口頭での理事報告を希望する理事がいなかったため、各自次項⑪の理事活動報告において報告書の閲覧を行った。

⑪　理事活動報告（2026 年 1 月〜6 月分）

すべての理事の活動報告については、業務執行報告として別紙（DropBox の資料として確認)の理事報告書の提出を受けており、その内容で理事の理事会における業務執行報告とする旨、出席理事全員が了承した。

勝　義直、小川宏人、熊野　岳、渡邉明彦、深津武馬、田中幹子、伊藤悦朗、和田　洋、吉田　学、三浦　徹、阿部秀樹、東城幸治、小柳光正、志賀向子、植木龍也、浮穴和義、岡田二郎、山脇兆史、小柴和子、佐倉　緑、吉田　薫

⑫　ICIPE 関係活動報告（東城理事）

ケニア・ナイロビに本部をおく「国際昆虫生理生態学センター（ICIPE: International Centre of Insect Physiology and Ecology)」への派遣研究者の公募・選考から派遣に関して、これまで日本動物学会をはじめとする関連学会に委嘱された委員により構成される「日本 ICIPE 協会・運営委員会」が担ってきた。しかしながら、若手研究者の派遣旅費の予算措置がなくなったため、実質的な派遣研究者の選考等が不要となった。このことにより、「日本 ICIPE 協会・運営委員会」から日本動物学会に委嘱されてきた運営委員の選出が不要となったことが報告された（資料 6)。

⑬　その他

その他の報告事項は無かった。

6.　審議事項

第一号議案　2026 年度 Zoological Science Award(論文賞)について（兵藤 ZS 主幹）

2026 年 3 月 17 日 に Zoological Science の Associate Editor お よ び Advisory Board Member に、2025 年発行 Vol. 42 に掲載された原著論文から受賞候補論文 5 編以内の推薦を依頼し、28 論文が推薦された。この候補論文から Editor-in-Chief および Associate Editor で、審議を行った結果、以下の 7 論文を授賞候補として理事会に推薦する旨の報告があった。

Kotake et al., 42 (1): 25-30.（分野 Physiology）
Ishikawa et al., 42 (2): 186-195.（分野 Physiology）
Kawashima et al., 42 (3): 260-269.（分野 Behavioral Biology）
Yamaguchi, 42 (3): 299–308.（分野 Ecology）
Ikuta et al., 42 (6): 521-531.（分野 Diversity and Evolution）
Ohtsu et al., 42 (6): 571-580.（分野 Molecular Biology）
Maruoka et al., 42 (6): 587-595.（分野 Physiology）

第二号議案　2026 年度日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞について（日下部選考委員長）

同賞について 15 名の応募があり、選考委員会での審議の結果、瀬口瑛子氏（東京農工大学農学部生物生産学科・特任助教・日本学術振興会特別研究員 PD）と塩井(青木)成留実氏（帝京大学福岡医療技術学部医療技術学科臨床工学コース・講師（任期制））の 2 名を受賞候補者として理事会に推薦する旨の報告があり、これが承認された。

第三号議案　2026 年度成茂動物科学振興賞について（成瀬選考委員長）

同賞について 8 名の応募があり、選考委員会での議論の結果、田中正太郎会員（東京女子医科大学 医学部生化学分野・講師）を受賞候補者として理事会に推薦する旨の報告があり、これが承認された。

第四号議案　2026 年度動物学教育賞について（成瀬選考委員長）

同賞について 1 名の個人と 1 団体の推薦があり、選考委員会での議論の結果、「ダーウィンが来た！」制作チームを受賞候補者として理事会に推薦する旨の報告があり、これが承認された。

第五号議案　2026 年度日本動物学会奨励賞について（成瀬選考委員長）

同賞について 21名の応募があり、選考委員会での議論の結果、自見直人会員（名古屋大学大学院理学研究科 附属臨海実験所・講師）、田中良弥会員（名古屋大学大学院理学研究科・講師）、和田清二会員（青山学院大学 理工学部 化学・生命科学科・助教）の 3 名を受賞候補者として理事会に推薦する旨の報告があり、これが承認された。 なお、推薦理由の表現や体裁等を整える必要があるとの指摘があり、今後修正する

こととした。

第六号議案　2026 年度日本動物学会賞について（成瀬選考委員長）

同賞について 7 名の応募があり、選考委員会での議論の結果、佐竹　炎会員（公益財団法人サントリー生命科学財団 生物有機科学研究所・主幹研究員）、丹羽隆介会員（筑波大学 生存ダイナミクス研究センター・教授）の 2 名を受賞候補者として理事会に推薦する旨の報告があり、これが承認された。

第七号議案　2026 年度茗原眞路子研究奨励助成金について（寺北選考委員長）

同賞について 33 名の応募があり、選考委員会での議論の結果、金谷啓之氏（東京科学大学 国際医工共創研究院 GENTEN Research Center・特任助教）、寺﨑朝子氏（千葉大学 大学院理学研究院・講師）、日暮泰男氏氏（~~国立大学法人~~山口大学 共同獣医学部・助教）の 3 名を受賞候補者として理事会に推薦する旨の報告があり、これが承認された。また、審査プロセスの改善として、外部資金の取得に関する自己申告欄の設置が提案された（第八号議案に関連）。また、寺﨑氏の研究課題タイトルに記載ミスがある可能性があり、理事会終了後に正しいものに変更された。

第八号議案　茗原眞路子研究奨励助成金支給規程改定について（伊藤理事（代読：吉田庶務））

「応募する年度において、研究テーマに関わらず、研究代表者または研究分担者として、科学研究費助成事業、国・地方公共団体、独立行政法人、民間財団、その他の機関から交付される競争的研究費その他これに準ずる外部資金を得ている者」を選考対象としないことを明記し、申請書にもチェック欄を設けることについて議論された（資料 7）。その方向性については概ね賛成されたものの、申請後や支給決定後に他の外部資金が採択された場合の本助成金の支給決定の取り消し・交付中止・助成金返還に関する記載をどうするかについては結論が出ず、来年度申請前まで継続審議することとなった。

第九号議案　2026 年度感謝状について（志賀会長）

阿部広和氏（東北大学総合技術部生物・生命科学群動物施設管理グループ海洋生物管理チーム（東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センター））と嶋田大輔会員（故人、日本大学経済学部）を感謝状の候補者として推薦状が会長に提出された旨が報告され、承認された。

第十号議案　外部理事導入に伴う定款細則改定（志賀会長）

資料 8 のとおり、令和 7 年度に公益財団法人の認定に関する法律が改定され、外部理事を 1 名以上置くことを定款細則に記載することが承認された。また、これまで監事は外部監事が 1 名含まれていたが、それも明記することが了承された。なお、理事の定員は最大 25 名である。定款細則改定時期にかかわらず、来期から運用する。

第十一号議案　2026 年度事業計画案について（吉田庶務）

資料 9 のとおり、定時社員総会の開催、学術集会の開催、学術誌（ZS, ZL）の刊行、ニュースの発行と広報活動の促進、Zoo Diversity Web（ZDW）の構築、研究の表彰（各種学会関連賞の授与）、研究の助成

（茗原助成の継続)、理事および各種委員会の活動、各支部の活動を継続することが提案され、承認された。

第十二号議案　2026 年度予算案について（佐倉会計）

資料 10 のとおり、2026 年度事業計画に基づいて作成された収支予算書（案）が提案された。概ね例年とおりであるが、Zoological Letters の APC 7 報分の支援（230 万円）と寄付・教育委員会の動物学体験プログラム活動費 2 名分（20 万円）を新規支出として計上することが説明された。動物学体験プログラム活動費はクラウドファンディングも実施しており、不足分を学会が補填することが確認された。なお、消費税として 45 万円を租税公課として計上した。加えて、本学会は 2026 年度に資金調達および設備投資の見込みはないことも合わせて説明され、収支予算書・資金調達および設備投資の見込みが承認された。

第十三号議案　代議員制導入について（志賀会長）

資料 11 のとおり、30 名に 1 名の基準で支部ごとに選出する計画が提案された。海外会員の支部選択、代議員選挙のスケジュール、理事の選挙権の有無、役員と社員の関係性などについて議論がなされたが、結論には至らず、8 月の理事会で議決する方向で継続審議となった。

その他

その他の審議事項は無かった。

8 月理事会（2026 年度第 1 回）の日程確認

2026 年 8 月 17 日（月）を候補日として、今後、時間調整を行う。

監事からの御意見

大島監事：動物学会には色々な賞があるが、それぞれの選考委員会で丁寧に審査がなされており、選考委員会に感謝が述べられた。

田島監事：若い人をエンカレッジする賞が重要である。また、茗原研究助成の他の研究費採択の際の取り消し・返還等の議論に関して、それほど厳格に記載する必要はなく、おおらかな気持ちで対応するのも良いのでは。また、代議員制の議論で、社員と理事は敵対する関係ではなく、学会をよくする方向で一丸となった取り組みができる体制づくりが重要である、というご意見を頂いた。

2026 年 6 月 ~~xx~~12 日

上記の内容で相違ないことを証するため、ここに記名押印をする。

会 長　志 賀 向 子

監 事　大 島 範 子

監 事　田 島 節 子